

市民公開講座

28年度・第1回

「薬科学って、なんやねん？」

立命館大薬・教授

鈴木 健二

武庫川女大薬・教授

木下 健司

近畿大薬・教授

鈴木 茂生

京大院薬・教授

加藤 博章

阪大院薬・准教授

岡田 直貴

28年度・第2回

「薬物依存を知る」

京大病院薬剤部・部長

松原 和夫

「心の毒」・・・薬物濫用

京都府立洛南病院・副院長

川畑 俊貴

「薬物依存症の医療現場から」

27年度・第1回

阪大微生物病研究会・理事長

山西 弘一

ワクチン開発 現在から未来へ

27年度・第2回

国立循環器病研究センター病院・移植医療部・部長

福嶋 教偉

移植医療の現場 その過去・現在・未来

26年度・第1回

健康科学研・所長、大阪市大医・名誉教授

井上 正康

健康長寿の処方箋 ～さらば生活習慣病～

26年度・第2回

C型肝炎ウイルスの感染予防とC型肝炎治療の最前線

国立感染症研・細胞化学部・室長

深澤 征義

「C型肝炎ウイルスを理解する～治療薬開発への道」

神戸朝日病院・院長補佐・薬剤部長

金 啓二

「C型肝炎治療の最前線」

25年度・第1回

「これからの医療における薬学の役割 —医療現場と創薬の立場から—」

神大病院薬・教授

平井 みどり

これからの医療における薬学の役割 ～臨床の立場から～

同志社大脳科学研究科・神経疾患研究センター・教授

杉本 八郎

薬学からの挑戦・アルツハイマー病の根本治療薬の開発を目指す

## 市民公開講座

25年度・第2回	神大院医・教授	青井 貴之	iPS細胞加工製品の実用化に向けた動向
24年度	阪大院医・教授	武田 雅俊	アルツハイマー病の新診断基準と早期診断
23年度	京大院医・講師	久米 典昭	心筋梗塞にならないための脂質管理
22年度	星薬大医薬品化学研・教授	鎌田 勝雄	日本人の体質に合った糖尿病治療薬を考える
21年度	東大院薬・教授	澤田 康文	薬を五感でどう捉える？
20年度「薬の安全、食の安全」	内閣府食品安全委員会委員・東大名誉教授 (財)日本食品分析センター・学術顧問	長尾 拓 伊藤 誉志男	薬の安全 食の安全
19年度「ヒトのころ、動物のころ」	京大院文・教授 京大ころの未来研究センター・教授	藤田 和生 船橋 新太郎	動物のころを探る 前頭葉から心を考える
18年度「免疫のしくみと薬学への応用～抗体の働きと医薬品～」	大阪大谷大薬・教授 中外製薬 MRAユニット・サイエンスディレクター	小野 史郎 大杉 義征	免疫学の基礎知識～免疫システムの多面性～ 分子標的医薬としての抗体～免疫難病の謎を解く ヒト化抗IL-6受容体抗体～
17年度「サプリメントの有効利用と健康被害回避に向けて」	阪大微生物病研・教授	堀井 俊宏	ワクチン戦略の現状～マラリアワクチンの開発～
	神戸学院大薬・教授	徳山 尚吾	サプリメントブームの落とし穴
	フレスコジャパン・代表	清水 俊雄	食品の健康表示と法規制
	神戸薬大・教授	平井 みどり	サプリメントと医薬品の飲みあわせ
	農林水産省農林水産技術会議事務局・研究開発課課長補佐	中野 明正	農林水産省における食の機能性・安全性研究へのとりくみ

## 市民公開講座

### 16年度「知っておきたい身近な薬学」

シミック(株)・代表取締役  
群馬大院医・教授・薬剤部長  
慶應大医・教授・薬剤部長

中村 和男 変化した医薬品開発  
堀内 龍也 薬が発売され安全に使えるようになるまで  
谷川原 祐介 くすりの安全な使用のための医薬品情報

### 15年度「くすりと食べ物」

京大院農・教授  
  
京都薬大・教授  
阪大病院・薬剤部病棟薬剤室長

伏木 亨 大トロ、霜降り肉、甘いケーキ、やめられない食べ物はドラッグか？:食品の嗜好性を薬物から見ると  
吉川 雅之 薬食同源ー食物に薬のルーツを探るー  
上島 悦子 くすりと食品の相互作用

### 14年度「健やか生涯」

京都薬大・教授  
京大院人間・環境学・教授  
阪大院医・教授

櫻井 弘 知っておきたいミネラルの効果  
森谷 敏夫 生活習慣病の予防・治療における運動の役割  
森本 兼曩 ライフスタイルと健康

### 13年度「臓器移植と薬」

京大病院・病院長・教授  
摂南大薬・教授

田中 紘一 肝臓移植と免疫抑制剤  
田中 洋和 移植医療の薬:免疫抑制剤タクロリムス(FK506)と創薬

京大病院・薬剤部長・教授

乾 賢一 移植医療における薬剤師の役割

### 12年度「人ゲノムの解明により何が期待できるか」

阪大院薬・教授  
阪大院医・教授  
武田薬品工業(株) 医薬開拓研究本部 開拓第二研・所長

東 純一 遺伝子判定とくすり処方の匙加減  
金田 安史 遺伝子治療の現状と将来性  
藤澤 幸夫 ゲノム情報を活用した新薬の研究開発